

## 第2章 参加校の活動内容とその結果

### 第1節 活動の概要

#### 2-1-1. 初参加校と参加経験校の学校数

令和5年(2023)年度の初参加校と参加経験校の学校数を表2-1-1に示す。

知的財産学習を継続的に実施している参加校が多いことが分かる。

表2-1-1 令和5年度参加校の参加回数(単位:校)

	合計参加校	H23~R3 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業及び R2~R5 知財力開発校支援事業 参加経験					
		R5 初参加校 (通算1回)	H23-R4の うち1回 及びR5参加 (通算2回)	H23-R4の うち2回 及びR5参加 (通算3回)	H23-R4の うち3回 及びR5参加 (通算4回)	H23-R4の うち4回 及びR5参加 (通算5回)	H23-R4の うち5回 及びR5参加 (通算6回)
工業	22	6	3	0	2	4	1
商業	4	1	0	0	1	0	1
農業	4	0	1	0	2	0	1
水産	6	0	0	1	1	1	0
情報	1	0	0	0	0	0	0
高等専門学校	5	1	0	0	0	0	0
合計	42	8	4	1	6	5	3
		H23~R3 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業及び R2~R5 知財力開発校支援事業 参加経験					
		H23-R4の うち6回 及びR5参加 (通算7回)	H23-R4の うち7回 及びR5参加 (通算8回)	H23-R4の うち8回 及びR5参加 (通算9回)	H23-R4の うち9回 及びR5参加 (通算10回)	H23-R4の うち10回 及びR5参加 (通算11回)	H23-R4の うち11回 及びR5参加 (通算12回)
工業		2	2	2	0	0	0
商業		1	0	0	0	0	0
農業		0	0	0	0	0	0
水産		1	0	1	0	0	1
情報		0	1	0	0	0	0
高等専門学校		1	2	0	1	0	0
合計		5	5	3	1	0	1

## 2-1-2. 指導対象について

学校種別ごとに指導対象をまとめると、表2-1-2のとおりである。

どの校種でも1年生から3年生まで全学年にわたって広く指導対象としていることが分かる。

表2-1-2 学校種別ごとにみた指導対象

学校種別	1年	2年	3年	4年	5年	課外活動等
工業(22校)	16校	19校	20校	1校	-	11校
商業(4校)	4校	3校	4校	-	-	0校
農業(4校)	3校	4校	4校	-	-	3校
水産(6校)	4校	5校	5校	-	-	1校
情報(1校)	1校	1校	1校	-	-	0校
高等専門学校(5校)	3校	4校	3校	4校	5校	2校

## 第2節 参加校における活動内容とその成果

### 2-2-1. 指導法とその成果

採用された指導法と採用数を表2-2-1に、またその成果についてのアンケート結果を図2-2-2に示す。表中の水色の網掛けは全体で50%以上採用されている指導法、赤色の網掛けは全体で30%以下の採用の指導法である。

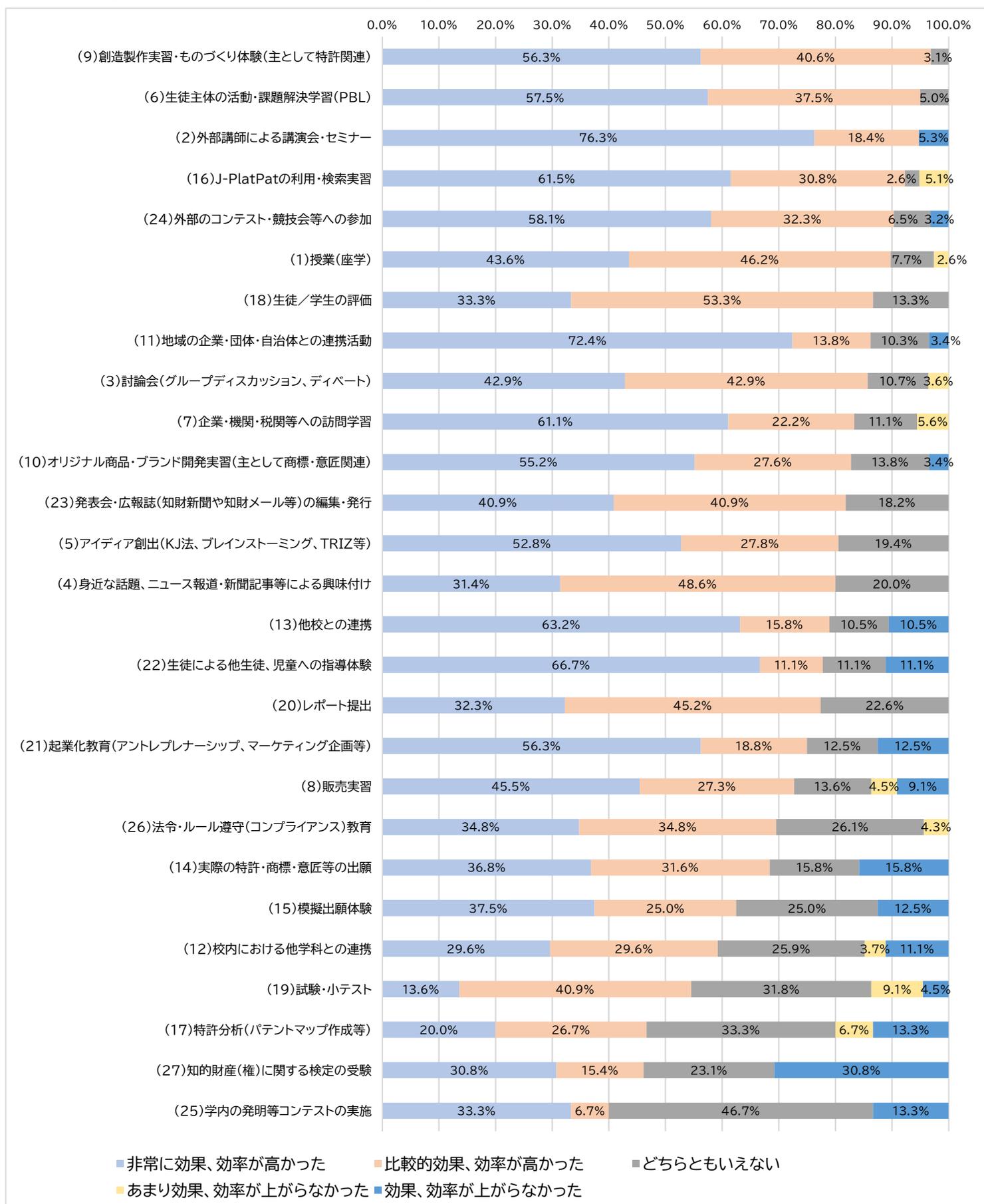
表2-2-1 採用された指導法と採用数(R5年度 アンケートより)(単位:校)

項目	工業 (22校)	商業 (4校)	農業 (4校)	水産 (6校)	情報 (1校)	高専 (5校)	全体 (42校)
(1)授業(座学)	21	3	4	6	1	4	39
	95%	75%	100%	100%	100%	80%	92%
(2)外部講師による講演会・セミナー	21	4	4	4	1	4	38
	95%	100%	100%	66%	100%	80%	90%
(3)討論会(グループディスカッション、ディベート)	11	2	4	6	1	4	28
	50%	50%	100%	100%	100%	80%	66%
(4)身近な話題、ニュース報道・新聞記事等による興味付け	21	2	3	5	1	3	35
	95%	50%	75%	83%	100%	60%	83%
(5)アイデア創出(KJ法、ブレインストーミング、TRIZ等)	18	3	4	5	1	5	36
	81%	75%	100%	83%	100%	100%	85%
(6)生徒主体の活動・課題解決学習(PBL)	21	3	4	6	1	5	40
	95%	75%	100%	100%	100%	100%	95%
(7)企業・機関・税関等への訪問学習	8	2	3	4	0	1	18
	36%	50%	75%	66%	0%	20%	42%
(8)販売実習	9	4	3	6	0	0	22
	40%	100%	75%	100%	0%	0%	52%
(9)創造製作実習・ものづくり体験(主として特許関連)	19	1	2	5	1	4	32
	86%	25%	50%	83%	100%	80%	76%
(10)オリジナル商品・ブランド開発実習(主として商標・意匠関連)	14	4	4	6	0	1	29
	63%	100%	100%	100%	0%	20%	69%
(11)地域の企業・団体・自治体との連携活動	14	4	3	6	0	2	29
	63%	100%	75%	100%	0%	40%	69%
(12)校内における他学科との連携	13	1	3	5	0	5	27
	59%	25%	75%	83%	0%	100%	64%
(13)他校との連携	10	3	2	3	0	1	19
	45%	75%	50%	50%	0%	20%	45%

(14)実際の特許・商標・意匠等の出願	9	2	2	4	0	2	19
	40%	50%	50%	66%	0%	40%	45%
(15)模擬出願体験	10	0	1	3	0	2	16
	45%	0%	25%	50%	0%	40%	38%
(16)J-PlatPat の利用・検索実習	22	3	2	6	1	5	39
	100%	75%	50%	100%	100%	100%	92%
(17)特許分析(パテントマップ作成等)	10	0	0	2	0	3	15
	45%	0%	0%	33%	0%	60%	35%
(18)生徒／学生の評価	16	2	3	6	0	3	30
	72%	50%	75%	100%	0%	60%	71%
(19)試験・小テスト	11	1	2	5	1	2	22
	50%	25%	50%	83%	100%	40%	52%
(20)レポート提出	16	3	2	5	1	4	31
	72%	75%	50%	83%	100%	80%	73%
(21)起業化教育(アントレプレナーシップ、マーケティング企画等)	7	2	1	4	0	2	16
	31%	50%	25%	66%	0%	40%	38%
(22)生徒による他生徒、児童への指導体験	10	1	1	4	0	2	18
	45%	25%	25%	66%	0%	40%	42%
(23)発表会・広報誌(知財新聞や知財メール等)の編集・発行	11	2	1	4	1	3	22
	50%	50%	25%	66%	100%	60%	52%
(24)外部のコンテスト・競技会等への参加	19	2	1	3	1	5	31
	86%	50%	25%	50%	100%	100%	73%
(25)学内の発明等コンテストの実施	9	1	1	3	0	1	15
	40%	25%	25%	50%	0%	20%	35%
(26)法令・ルール遵守(コンプライアンス)教育	10	3	2	5	0	3	23
	45%	75%	50%	83%	0%	60%	54%
(27)知的財産(権)に関する検定の受験	8	0	0	2	0	3	13
	36%	0%	0%	33%	0%	60%	30%

図2-2-2 採用された指導法の成果(R5年度 アンケートより)

(注1)小数点第二位で四捨五入しているため、指導方法の各項目の合計は100.0%にならない場合がある。



アンケート結果によれば、よく採用されている方法(全体の 50%以上)には、(1)授業(座学)、(2)外部講師による講演会・セミナー、(3)討論会(グループディスカッション、ディベート)、(4)身近な話題、ニュース報道・新聞記事等による興味付け、(5)アイデア創出(KJ 法、ブレインストーミング、TRIZ 等)、(6)生徒主体の活動・課題解決学習(PBL)、(8)販売実習、(9)創造製作実習・ものづくり体験(主として特許関連)、(10)オリジナル商品・ブランド開発実習(主として商標・意匠関連)、(11)地域の企業・団体・自治体との連携活動、(12)校内における他学科との連携、(16)J-PlatPat の利用・検索実習、(18)生徒/学生の評価、(19)試験・小テスト、(20)レポート提出、(23)発表会・広報誌(知財新聞や知財メール等)の編集・発行、(24)外部のコンテスト・競技会等への参加、(26)法令・ルール遵守(コンプライアンス)教育等があり、興味付けから、制度学習や実践的な取組にいたるまで、様々な活動が広くおこなわれている。

このうち、いくつかの取組について、その取組の傾向と具体的な取組内容を述べる。

## (2)外部講師による講演会・セミナー

外部講師による講演会・セミナーも広く行われており、指導効果の評価も高い。その内容、講師は、例えば、以下があげられる。

- 新潟大学 山内教授「バイオミメティクスを活用して、どう社会課題を解決するか」  
群馬大学 佐藤和好准教授「未来を拓くナノ粒子技術を利用したものづくり」  
東北大学 木下弁理士「J-Plat Pat 検索方法と先行技術との差別化」(宮城県工業高等学校)
- 弁理士による知財の概要説明とワークショップ。前半は概要を弁理士会の web サイトにある教材を使いながら講義して頂き、後半はワークショップ(ペーパータワー)を行った。(群馬県立前橋工業高等学校)
- 長野県発明協会、日置電機株式会社、企業における知的財産とその位置づけなど(長野県上田千曲高等学校)
- 独立行政法人中小企業基盤整備機構「ビジネスにおける知的財産の活用事例、知らないで損する知財の世界」(富山県立富山工業高等学校)
- 企業における知的財産(中部電力、岐阜プラスチック、ユーエスウラサキ、弁護士、KRH)(岐阜県立岐南工業高等学校)
- 1年インテリアデザイン科生徒(40名)授業内容 工業情報数理「知的財産導入」派遣教員 大阪工業大学 大学院 知的財産研究科教授 榎本 吉孝先生  
2年インテリアデザイン科生徒(41名)授業内容 インテリアデザイン実習「デザインパテントコンテスト導入」派遣講師 日本弁理士会 大西特許事務所 弁理士 大西 正夫氏  
3年インテリアデザイン科生徒(35名)授業内容 課題研究における「知財力育成のための講義」派遣教員 大阪工業大学 大学院 知的財産研究科教授 榎本 吉孝先生  
3年選択授業受講者(23名)授業内容 課題実習 B インテリア「ファッションにおける知的財産・及びファッションショーにおける構成についての講義」派遣教員 神戸樟蔭女子大学 講師 井上 浩之 先生(大阪府立工芸高等学校)
- 山口大学陣内秀樹先生:特許情報検索講習会  
知的財産権について学び、J-PlatPat を使えるようになる。同時に特許検索競技大会スチューデントコースもサテライト開催(大分県立情報科学高等学校)
- 西日本工業大学(野中先生)水車概論の講義、宇佐市役所地域おこし協力隊(田中克典さん)倍圧整流回路について(大分県立大分工業高等学校)
- 依頼先:学校法人都築教育学園 第一工科大学 工学部 機械システム工学科 教授 満丸 浩 先生「身の周りの知的財産」(鹿児島県立薩南工業高等学校)
- 依頼先:山口大学准教授 陣内秀樹様 内容:過去の裁判の事例等に基づいて意匠や商標がなぜ侵害にあたるのか、理由に基づいた知財学習(鹿児島県立川内商工高等学校)
- 株式会社ウィズソル 演題:「非破壊検査ってなに?」内容:非破壊検査業務内容の紹介、それに使用する開発した検査

機器の実演と関連特許紹介(鹿児島県立鹿児島工業高等学校)

- 講演「チャレンジプロジェクト」として 株式会社ロイヤル「商標等の権利と商品の流通」開発商品「マスク」「HYAY」など、「みなとちゃん」商標を活用した取組で、権利の大切さと流通に必要な条件として講演いただいた。知財力開発校支援事業を活用した取組として生徒にチャレンジする機会を与えるということで「本年度チャレンジプロジェクト」という名称全学年での講演とした。

講演「みなとちゃん」商標登録の意義と今後の展開(ブランド化)について、丸林弁理士に依頼し、3年商業に関する学科に対する事業とした。(茨城県立那珂湊高等学校)

- 山崎製パン株式会社 山崎製パンにおける知財の取り扱いについて(千葉県立千葉商業高等学校)
- 弁理士法人ととせ・ももとせ 斎藤整 ブランドと商標 弁理士法人飛翔法律事務所 中島和也 著作権と商標権 (兵庫県立長田商業高等学校)
- 「津本式 究極の血抜きについて」有限会社 長谷川水産 津本光弘 様  
「知財力セミナー ～発明トレーニング～」日本弁理士会九州会 ソシデア知的財産事務所 弁理士 小木 智彦 様  
「製品開発に関わる知的財産(特許・商標)について」合同会社フードマーク 代表社員 広本 秀一 様(宮崎県立宮崎海洋高等学校)
- 日本弁理士会-発明トレーニング/学生向け知財セミナー  
1 級知的財産管理技能士/知的財産に関する講義  
弁理士/知的財産・ビジネスに関する講義(旭川工業高等専門学校)
- 深澤弁理士による知財活用事例研究にて 5 年生を対象に J-PlatPat を用いた特許検索を通じて知財保護と活用について意識付けできた。  
本谷弁理士による知財創出・マインド育成を 1 年生を対象に実施。知的財産を創出～権利化までの一連の知識を教授。たけお IP ワークス・竹本氏による知的財産管理技能検定 3 級対策講座を実施 18 名受講。  
シナプテック(株)戸田氏によるプチ起業体験セミナーを希望者 14 名に実施。起業に向けた考え方、投資家向け資料作成までを演習で体験した。(サレジオ工業高等専門学校)

#### (7)企業・機関・税関等への訪問学習

主な訪問先として、地元企業や大学等へ訪問している例が多い。

- 理化学研究所 スーパーコンピュータ「富岳」見学  
最先端技術をどう社会課題解決のために活かしているか(宮城県工業高等学校)
- 静岡県庁、静岡理科大学など 目的は、ユニバーサルデザインと産業財産権についてや AI が考えるアイデアについてのヒヤリングのため(静岡県立藤枝北高等学校)
- YKK株式会社法務・知的財産部  
知的財産の社会的意義と企業実務を理解するため(富山県立富山工業高等学校)
- メディカルショー・ジャパン2023、名古屋税関(岐阜県立岐阜工業高等学校)
- 大同大学、八幡化成(デザインパテコンの学習)(岐阜県立岐南工業高等学校)
- 大晃機械工業株式会社(山口県立田布施農工高等学校)
- 株式会社 JFE スチールセンター(香川県立多度津高校)
- 作品制作のための取材  
ヤマロク醤油 てんてこ舞い(うどん店)(香川県立善通寺第一高等学校)
- 発明体験ワークショップ(広島)パテントコンテスト出願のための学習(大分県立大分工業高等学校)
- 株式会社ロイヤル本社(名古屋)、藤原物流センター(三重)岡山ベース(知財担当者など開発部署)

本校開発商品はもちろんのこと、全国展開するために必要なこと、知財の活用などについて、生徒1名が参加、岡山からは教員1名がオンラインで教室とつなぎ講義を実施した。(茨城県立那珂湊高等学校)

- 山崎製パン株式会社 ランチバック新商品開発(千葉県立千葉商業高等学校)
- TDKの担当者(弁理士を含む)により、各種製品の解説を知財目線で行っていただいた。(秋田県立増田高等学校)
- ダリアの華展(R5年10月1日)(山形県立置賜農業高等学校)
- ホシザキ「乳加工品の商品開発と衛生管理研修会」(熊本農業高等学校)
- 南駿河湾漁協(静岡県立焼津水産高等学校)
- 特許庁:見学および研修(愛知県立三谷水産高等学校)
- 株式会社器・新商品開発について(宮崎県立宮崎海洋高等学校)
- 日本弁理士会 沼津高専オリジナル版  
日本弁理士会東海支部 知財活用セミナー(沼津工業高等専門学校)

#### (11)地域の企業・団体・自治体との連携活動

オリジナル商品の開発を地域の企業や自治体等と連携して行い、地域発の商品・サービス等の展開に繋げる取組がされている。

- 日立ソリューションズ東日本  
DX アイデアの社会実装についての講義(全16時間)(宮城県工業高等学校)
- 株式会社サンスター  
講話『3D プリントにおける知的財産権』(埼玉県立大宮工業高等学校)
- 株式会社 JINRIKI(長野県上田千曲高等学校)
- 放課後学童クラブ「カラフル」、富山県立富山総合支援学校  
特許発明の試験導入・実施(富山県立富山工業高等学校)
- 岐阜大学・笠松町とのセッションを行い、幅広い視点からの町おこしについて考えた。(岐阜県立岐阜工業高等学校)
- あいおいかあちゃんず(地域イベント主催団体)(兵庫県立相生産業高等学校)
- 長府企業フェスタ出展(山口県立下関工科高等学校)
- 近隣の小中学校(山口県立田布施農工高等学校)
- 株式会社タダノコアテクセンター、徳島文理大学理工学部(香川県立多度津高校)
- 「第4土曜日は本町デー」実行委員会  
販売ブースの出店(香川県立善通寺第一高等学校)
- 小学校出前授業(大分市立明野東小学校、別府市立境川小学校)、城下かかれい祭りブース出展(日出町)、こども工務店(SAKAI 株式会社)、夢ふれあい大会・社会教育振興大会(大分市教育委員会)(大分県立情報科学高等学校)
- 山口大学(陣内先生)特許検索講習会、いくつものかたち(木原社長)(大分県立大分工業高等学校)
- 連携先:南九州市知覧図書館 内容:寄贈用木製脚立作成(鹿児島県立薩南工業高等学校)
- ひたちなか商工会議所、株式会社ロイヤルとの連携による「みなとちゃん」推奨品の展開で、生徒に商標の大切さを学ばせる機会を与える。  
地域ブランド化として、みなとちゃん自動販売機44台を設置(アシードブリュー株式会社)、伊勢増「みなとちゃん干しいも」等で利益全額を海浜鉄道の延伸寄付等地域へ還元する仕組みを作る。(茨城県立那珂湊高等学校)
- 山崎製パン株式会社、千葉県庁(千葉県立千葉商業高等学校)
- 平塚漁協、鳥仲商店に支援をいただき、商品開発を行う際に、シラのキャラクターの使用許可や、鳥仲商店の商品に関する商標登録について学んだ。(神奈川県立平塚農商高等学校)

- 松原製館所 ハーブを使用した羊羹の開発  
ecca ハーブを使用したクッキーの開発(兵庫県立長田商業高等学校)
- 地域の食品会社との連携では、オリジナル商品の生産の方法について適宜アドバイスをいただきながら活動した。(秋田県立増田高等学校)
- ダリア振興部会、東寒商事、香月(山形県立置賜農業高等学校)
- 枕崎漁協組合(熊本農業高等学校)
- 三菱商事・三菱食品(秋田県立男鹿海洋高等学校)
- 焼津漁協、(株)静岡魚市場(静岡県立焼津水産高等学校)
- 課題研究:ヤマサちくわ(株)、(株)平松食品、ロワジールホテル豊橋等(製品開発)(愛知県立三谷水産高等学校)
- 愛媛県営業本部、愛媛県農林水産部、松野町ふるさと創生課(商品開発、販売促進)(愛媛県立宇和島水産高等学校)
- 株式会社器・新商品開発について(宮城県立宮崎海洋高等学校)
- 演習「リバーエンジニアリング」にて使用した題材をニックス(株)よりご提供いただいた。(サレジオ工業高等専門学校)
- 裾野市、静岡県東部局、富士山清水港クルーズ(株)、静岡新聞/静岡放送(沼津工業高等専門学校)

#### (24)外部のコンテスト・競技会等への参加

以下の外部のコンテストや競技会等へ参加している。

- パテントコンテスト
- デザインパテントコンテスト
- Ene-1GP KV-BIKE チャレンジ
- IDEX(シンガポール大会)
- JSEC
- ORANGE\_CUP2023(拓殖大学)
- PC 甲子園
- U22 プログラミングコンテスト
- WRO
- ぎふアイデアプレゼンテーション
- キャンパスアートアワード 2023(コクヨ)
- サイエンスデイ
- ソーラーラジコンカーコンテスト
- マイコンカーラリー大会
- マリンロボットコンテスト
- ものづくりコンテスト
- 各 SSH 発表会
- 技術アイデアコンテスト
- 京都大学テクノ愛
- 高校生ビジネスプラン・グランプリ
- 高校生ボランティアアワード
- 高校生科学技術チャレンジ
- 高校生技術・アイデアコンテスト

- 高専 G-CON
- 高専起業家サミット
- 高等学校ロボット競技大会
- 高等学校ロボット相撲選手権
- 全国産業教育フェア
- 若年者ものづくり競技大会
- 商業高校フードグランプリ(伊藤忠商事)
- 情報オリンピック
- 情報処理学会全国大会
- 神奈川大学論文コンテスト
- 水中ロボット競技会
- 千葉大学高校生研究発表会
- 全国ユース環境活動発表大会
- 全日本ロボット相撲
- 全日本学生児童発明くふう展
- 相撲ロボットコンテスト
- 知財創造実践甲子園
- 電気学会高校生研究発表会
- 電子情報通信学会学生セッション
- 東京理科大論文コンテスト
- 特許検索競技大会スチューデントコース
- 日経 SDGsコンテスト
- 日本エネルギー学会
- 日本学生科学賞
- 日本工業大学 プロダクトデザインコンテスト
- 日本動物学会
- 文房具コンテスト
- 毎日 DAS 高校生デザインコンクール

## 2-2-2. 新たに開発または導入した指導方法及び他校と連携した取組

新たに開発または導入された指導方法や他校と連携した取組として、参加校からは以下のような事例報告がなされている。

### 新たに開発または導入した指導方法

- 「気づき」と「明確な課題意識」を持つためのプレゼン資料(宮城県工業高等学校)
- 今年度から実施しているため、全てが初の取り組みであった。
  - ・ アイデア創出のための社会人講師による講義・ワークショップ
  - ・ 弁理士による講義・ワークショップ
  - ・ J-PlatPat を用いた調べ学習(群馬県立前橋工業高等学校)
- J-PlatPat の利用・検索  
弁理士による講話(埼玉県立大宮工業高等学校)
- 商業科・農業科連携による商品開発・パッケージデザイン開発の実施 本校栽培による桃を使用した製品づくりと商業科によるパッケージデザインの制作を行った。(静岡県立藤枝北高等学校)
- 採択初年度の為、ほぼ全てが新規に開発し導入した指導内容であった。(富山県立富山工業高等学校)
- 生徒の進路先の知的財産権について調査し、レポートした(岐阜県立岐阜工業高等学校)
- 課題研究における知的財産(岐阜県立岐南工業高等学校)
- パワーポイント「フレームワーク」「ブレインストーミング」「知財初級」「TRIZ」「知財を学ぶ理由」(山口県立徳山商工高等学校)
- Blenderによる地元のキャラクター製作(山口県立田布施農工高等学校)
- デジタル創造科1年生(80名)を対象に、「工業技術基礎」の中で知財学習を実施(大分県立情報科学高等学校)
- ランチパック新商品開発、千葉大学と連携して起業を仮想的に体験できる授業を実施(千葉県立千葉商業高等学校)
- TDK知財担当チームの協力を得て、TDK歴史みらい館においてTDK知的財産セミナーを開催した。(秋田県立増田高等学校)
- 商標にポイントを絞って授業を行った(静岡県立焼津水産高等学校)
- ワークショップ型知財セミナー。弁理士の方を講師として、日常の困りごとを考え、それを解決する製品を考案するもの。(愛知県立三谷水産高等学校)
- 自らが起業家であり大学などでセミナーを開催しているシナプテック(株)戸田氏を招聘。起業を視野に、社会問題の抽出、課題設定、具体化について講義・演習を実施。(サレジオ工業高等専門学校)
- 身の周りの「癒・食・知」に関する TRIZ の 40 の発明原理探しを行い、その発明原理をヒントにプチ商品開発に挑戦する。(沼津工業高等専門学校)
- 第2学年を対象とした TRIZ を用いた知財教育(奈良工業高等専門学校)

### 他校との連携

- 昨年度に引き続き「知的財産権静岡連絡会」の実施 沼津高専、遠江総合高校、焼津水産高校、本校(静岡県立藤枝北高等学校)
- 東濃特別支援学校と3Dプリンターの発展的使用方法についてのミーティングを実施した。(岐阜県立岐阜工業高等学校)
- 大阪市立常盤・瓜破北・長吉幼稚園、大阪府立堺支援学校(大阪府立工芸高等学校)
- 山口県立田布施農工高等学校 先進校視察(授業見学およびロボットのリバースエンジニアリング)(山口県立徳山商工

高等学校)

- 多度津小学校 絵本の読み聞かせ(香川県立善通寺第一高等学校)
- 特許情報検索講習会:大分県内他校の生徒・教員も参加(大分工業高校、日田林工高校、宇佐産業科学高校)(大分県立情報科学高等学校)
- 特許検索講習会(J-PlatPat 検索など)を情報科学高校、日田林工高校、宇佐産業科学高校と合同実施(大分県立大分工業高等学校)
- 常磐大学高校との連携による「プロジェクションマッピング」の実施。「みなとちゃん」商標の活用。(茨城県立那珂湊高等学校)
- 東金商業、銚子商業、君津商業 ランチパック新商品開発(千葉県立千葉商業高等学校)
- 淀商業高等学校 淀翔モール(メタバース)への出店(兵庫県立長田商業高等学校)
- 地元小学生に稲作を知財目線(商標権等のブランド保護の内容)で解説した。(秋田県立増田高等学校)
- 秋田県立金足農業高校地域協働による探究学習(課題研究)推進校研修、佐賀県立有田工業高等学校知財学習先進校との生徒交流(熊本農業高等学校)
- 藤枝北高校、遠江総合高校、沼津高専(静岡県立焼津水産高等学校)
- 南宇和高校と新しい商品開発および知財の基礎学習(愛媛県立宇和島水産高等学校)
- 宮崎県立小林秀峰高等学校(農業科食品専攻生2年生)・「津本式 究極の血抜きについて」(宮崎県立宮崎海洋高等学校)
- 知財静岡県連絡会 静岡県立遠江総合高等学校/静岡県立藤枝北高等学校(沼津工業高等専門学校)

### 第3節 学習用資料の活用状況

#### 2-3-1. 本年度参加校で使用されたテキスト等の種類と利用状況と指導効果

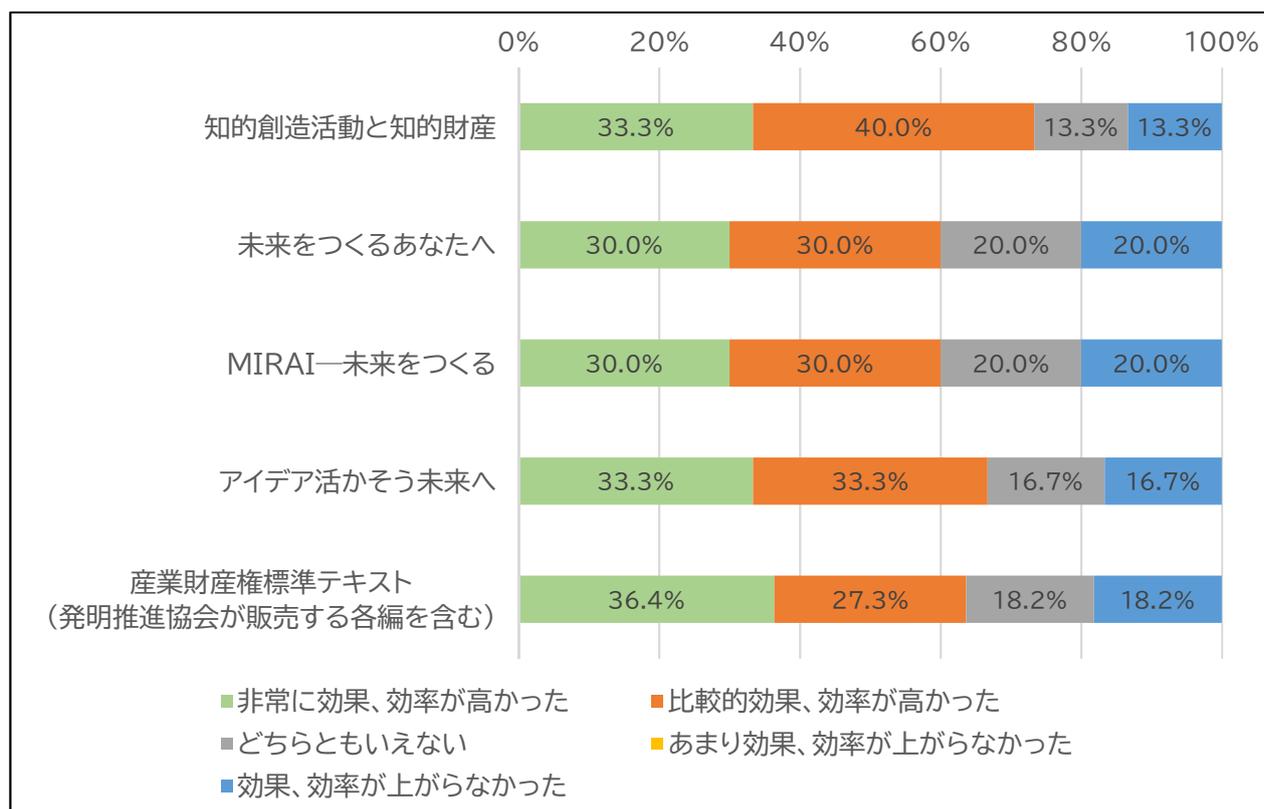
##### (1) 使用されたテキスト等と学校区分による使用状況

参加校においては、産業財産権標準テキストが多く活用されており、その他のテキストについても活動内容に合わせて効果的に使用されているものと思われる。

表2-3-1 テキスト等の使用状況(令和5年度アンケートより)(単位:校)

項目	工業 (22校)	商業 (4校)	農業 (4校)	水産 (6校)	情報 (1校)	高専 (5校)	全体 (42校)
知的創造活動と知的財産	9	0	1	4	0	1	15
	40%	0%	25%	66%	0%	20%	35%
未来をつくるあなたへ	6	1	0	3	0	1	11
	27%	25%	0%	50%	0%	20%	26%
MIRAI—未来をつくる	6	1	0	3	0	1	11
	27%	25%	0%	50%	0%	20%	26%
アイデア活かそう未来へ	7	0	1	5	0	1	14
	31%	0%	25%	83%	0%	20%	33%
産業財産権標準テキスト (発明推進協会が販売する各編を含む)	9	1	1	5	0	1	17
	40%	25%	25%	83%	0%	20%	40%

図2-3-2 テキスト等の指導効果【年間報告会時】(令和5年度アンケートより)



## 2-3-2. 補助学習用資料の活用法

年間アンケートや年間指導報告書によると、補助学習用資料は、知的財産の概念を分かりやすく具体的に生徒に教えるために活用されていることがわかる。特に映像教材は生徒も興味を持ちやすく、イメージしやすいという効果があるとの記載がある。また、特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)による権利の調査は多くの学校で実施されており、知的財産がどのようなものかを伝えるのに特に有効な手段であることがわかる。

## 2-3-3. 学習用資料の改良・新しい学習用資料の開発

教員が指導しながら新しい学習用資料を開発した事例や、学習用資料を改善した主な事例を以下にあげる。

### 学習用資料の開発等

- 今年度から2学期の内容として富士総研の ReBaLe を導入した。「えらぶ」「ばらす」「わかる」「まねぶ」のステップに分けてそれぞれにあうワークシートを用意した。(神奈川県立神奈川工業高等学校)
- オリジナルプレゼン資料及びワークシートを作成した。(富山県立富山工業高等学校)
- 工業技術基礎の授業で扱う、スライド、レポート課題、ワークシートを作成した(大分県立情報科学高等学校)
- J-PlatPatの使い方を学ぶため、キッコーマンとキッコーナンの比較から知的財産権を学ぶプリントを作成した。(神奈川県立平塚農商高等学校)
- 本校販売商品を生かした改善・新商品開発において J-PlatPat 等も活用して調査し、セールスマンになりきって1つの商品を売り込むプレゼンテーションを行うというシミュレーション学習を実施した。(秋田県立増田高等学校)
- 発明協会 HP の動画を取り入れながら、商標についてわかりやすく学べる教材(静岡県立焼津水産高等学校)
- 『アイデアを伸ばそう 知的財産を活用して』と発想法 TRIZ 教育を融合させた授業を実施した。(沼津工業高等専門学校)

## 第4節 学習用資料の活用状況

### 2-4-1. 知的財産委員会等の知財人材育成の推進組織の設置と活動

#### (1) 委員会の設置

知財マインドを持った人材の育成の取組は、特定の限られた教員のみでの活動では困難であり、参加校では校内に知的財産委員会などの委員会を設置して、組織的にその推進に当たるようになっている。

なお、現状の校内での推進委員会の設置状況は、表2-4-1のとおり、参加校の約60%に当たる25校に設置されている。そのうち、令和5年度に新規設置された委員会は7校ある。

表2-4-1 校内推進委員会の設置年度(年間指導報告書より)(単位:校)

年度	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H24	H17	未設置
合計 42校	7	2	1	2	2	2	4	1	2	1	1	17

#### (2) 委員会の体制

委員の人数であるが、表2-4-2に示すように、7~9人が多い。この中では学校の管理職も委員に就任しているケースも多い。

表2-4-2 校内推進委員会の委員数(年間指導報告書より)(単位:校)

人数	3人以下	4~6人	7~9人	10~14人	15~19人	20人以上
合計 25校	0	4	13	4	3	1

また、実際に指導にあたる教員・教官の人数は、表2-4-3のとおりとなっている。

表2-4-3 知的財産指導教員の人数(年間指導報告書より)

人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	教員 合計	1校あたり 平均人数
合計 42校	0	2	3	4	3	1	4	3	3	19	497	11.8

## 2-4-2. 知的財産関連学校行事の実施

知的財産関連学校行事の実施について表2-4-2に示す。

校内向けの講演会や、発表会・展示会への取組を実施している学校が比較的多い。

表2-4-2 学校行事(年間指導報告書より)(単位:件)

行事	工業	商業	農業	水産	情報	高専	全体
a)校内向けの講演会	8	0	1	2	0	2	13
b)企業・機関・税関等への訪問学習	0	0	1	0	0	0	1
c)発表会・展示会(文化祭等)	2	1	1	3	1	1	9
d)アイデアコンテスト(パテントコンテスト等)	3	0	0	0	0	0	3
e)商品販売実習	0	0	0	0	0	0	0
f)対外的に開かれたセミナー	0	0	0	0	0	0	0
g)職員向けの研修・セミナー	1	0	0	0	0	0	1
h)生徒自身による児童・生徒への知的財産指導	1	0	0	0	0	0	1